

小笠原諸島における植栽に関するワーキンググループについて

(1) 小笠原諸島における植栽に関するワーキンググループとは

- ・科学委員会の了解を得て、「小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会」の下に設置したものである。概要は以下のとおり。

表 ワーキンググループの概要

名 称	小笠原諸島における植栽に関するワーキンググループ
メンバー (:座長) 敬称略	<p>清水 善和 駒沢大学 教授 専門は植物生態学、島嶼地理学。1976 年より小笠原諸島に通い続け、大洋島の植物の進化・生態とその保護について調査・研究を実施。小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 委員。</p> <p>可知 直毅 首都大学東京大学院 教授 専門は植物生態学。とくに、生理生態学と個体群生物学の視点から、植物の「生き様」の多様性とその適応的な意義に対する理解をめざしている。小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 委員。</p> <p>田中 信行 森林総合研究所 植物生態研究領域 主任研究員 専門は森林生態学。1987 年から熱帯における造林や天然更新の技術開発に携わる。1993 年から小笠原におけるアカギの駆除と生態の研究に関わるようになる。小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 委員。</p> <p>安井 隆弥 NPO 小笠原野生生物研究会 1978～1991 年まで小笠原高校に勤務、教職を退いた後に小笠原野生生物研究会を設立し、島内で各種の自然環境保全事業を行っている。小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 委員。</p> <p>伊藤 元己 東京大学 教授 専門は植物進化学・花の進化学・多様性情報学。植物を対象にした研究が中心であるが、昆虫や微生物をあつかった研究や、生物間相互作用の進化研究もやっている。小笠原希少野生植物保護増殖事業検討会メンバー。</p> <p>加藤 英寿 首都大学東京大学院 助教 専門は植物系統学。小笠原諸島を主なフィールドとして植物の種分化や由来・個体群構造に関する研究を進める。小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議等のメンバー。</p> <p>吉丸 博志 森林総合研究所 森林遺伝研究領域長 専門は森林集団遺伝学。遺伝マーカーを用いた遺伝子解析により樹種の遺伝的多様性及びその保全に関する研究を行っている。小笠原をフィールドとした研究には、オガサワラグワの保全、小笠原固有高木種の遺伝的多様性の解明などがある。</p>
オブザーバー	<p>その他事務局が必要と認める者 事例検討に際して対象事業の経緯に詳しい専門家や、種子散布や昆虫による受粉といった観点から鳥類や昆虫類の専門家などに参加いただくことを想定。</p>
管理機関	環境省、林野庁、東京都、小笠原村

(2)目的

- ・管理機関が実施する植栽を伴う生態系の保全・管理事業の計画に先だって適用すべき「小笠原諸島の生態系の保全・管理の方法として『植栽』を計画するにあたっての考え方」(以下「考え方」という)をとりまとめることを目的としている。

(3)期間

- ・平成22年度～平成23年度 (これまでに4回開催)

(4)検討の経過

- ・平成 22 年度から平成 23 年度に 4 回のワーキングを開催し、「考え方」について検討を進めてきた。これまでの検討の経過は以下のとおり。

表 ワーキンググループの開催時期と内容

名 称	開催時期	検討内容
第 1 回	平成 22 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループの設置と検討の進め方、成果のイメージについて、事務局より説明。 ・小笠原における植栽の事例紹介（オガサワラシジミの保全対策）。 ・「考え方」について、ゾーニング図が示す内容を整理する必要性等が指摘された。 ・植栽に関する根本的な議論として、小笠原における地域個体群間の遺伝的差異の研究事例、遺伝子攪乱の定義や問題点等について意見交換。
ヒアリング	平成 22 年 10 月～12 月	<p>（主な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え方」に基づく個別事例の検討結果は科学委員会にも報告すべき。 ・ゾーニング図は根拠となるデータを示すとともに、個別事情を考慮する必要があることから、事例毎に議論を行うことのできる余地を残す必要がある。 ・植栽をしても遺伝的に問題の少ない種のリストは、集団解析等の科学的根拠が必要。範囲と一緒に示すべき。
第 2 回	平成 23 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングについては、固有種の分布やスポット的にギャップがある場合があることから、ゾーニング図だけではなく個別事情をしっかりと把握し配慮・検討することの重要性が指摘され、図面の扱い方やデータの注釈などを明記しておく必要性について指摘があった。 ・委員より遺伝子解析事業の進捗について報告があり、手法や解析対象種、対象地域等について質疑や意見交換が行われた。
第 3 回	平成 23 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽計画の検討経緯を記録するだけでなく、植栽の実施結果についても記録として残すべきという指摘があった。 ・また、モニタリングの記述に関する意見交換が行われた。
第 4 回	平成 23 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・文言の修正のほか、「考え方」自体の見直しや実施した植栽について事後評価を行うことの重要性についての指摘があり、文章へ反映させることとした。 ・「考え方」の議論に関連して、今後の事務局機関の課題として、現地の細かな情報を蓄積する仕組みづくりや、事業の優先順位の調整方法などについて指摘があった。 ・植栽に関する WG の今後の予定について、本日の指摘事項を反映した上で、「考え方」については最終版として科学委員会に報告を行うことです承された。

(5)今後の予定

- ・ワーキングにおける検討結果について、平成23年度第1回科学委員会に最終報告を行い、科学委員からの指摘を踏まえて必要に応じて修正等を行う。修正についてワーキンググループメンバーへの報告した上で、事務局にて「考え方」を策定し、これをもって「小笠原諸島における植栽に関するワーキンググループ」を終了する。
- ・策定した「考え方」に基づき、管理機関が実施する個別の事業において植栽の実施に関する検討等を行い、管理機関において事例の情報を収集・共有・蓄積する。
- ・また、これまで行われている遺伝的解析の研究などについても適宜情報を収集する。
- ・蓄積した情報や新たな知見等により、見直しの必要が発生した場合には、「考え方」の改訂作業を行うものとする。

表 検討の経過と今後の予定

